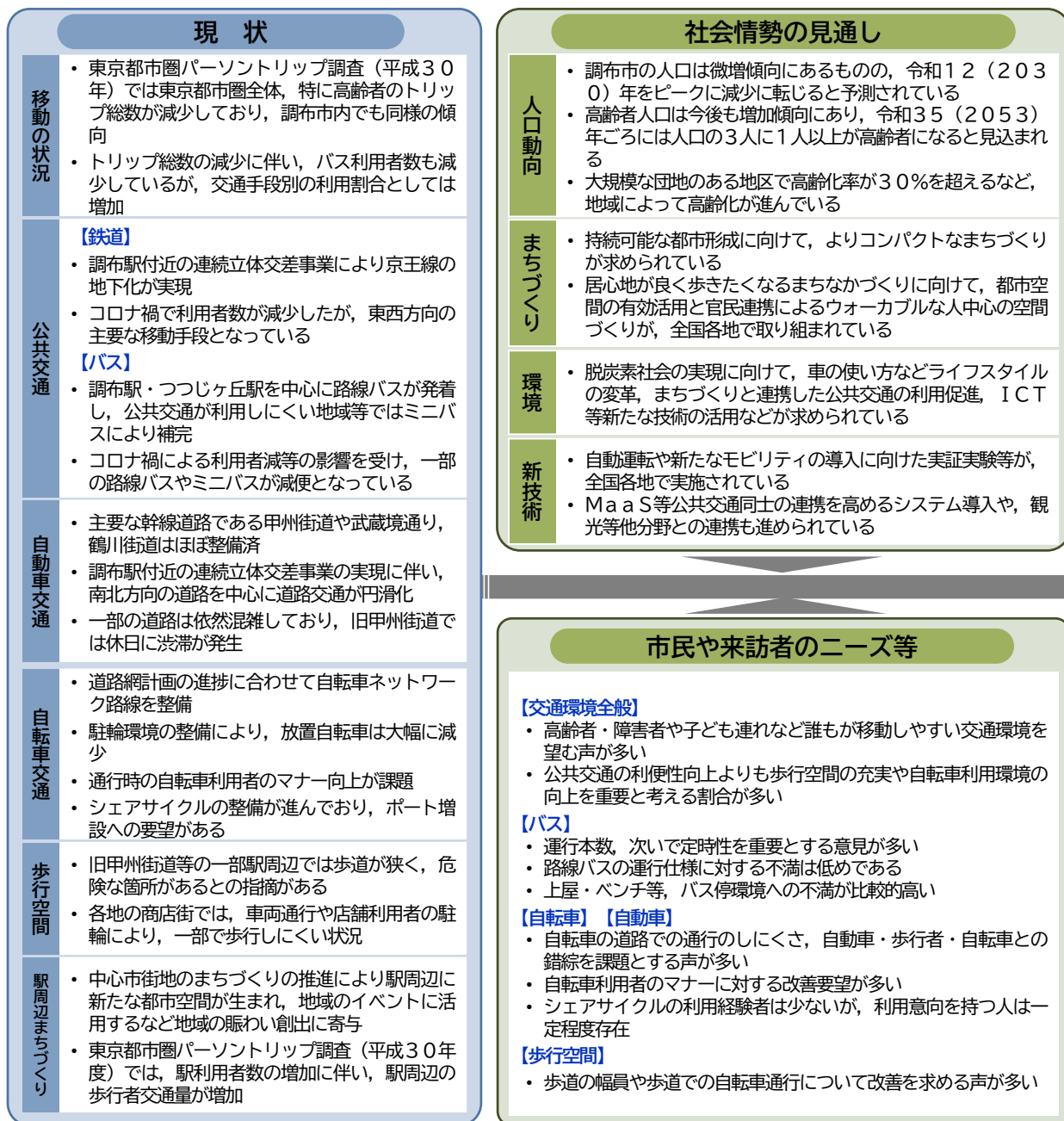




令和4年度第5回調布市公共交通活性化協議会  
資料2の差替え資料

### 第3節 課題の整理

これまでに示した内容を踏まえ、以下のとおり、調布市における現在の交通に関する課題を整理しました。



## 基本交通施策1-2 公共交通利用環境の整備

## 施策実施方針5 乗継利便性などの向上

移動経路におけるバリアフリー化のほか、バス利用者のための乗継情報や案内表示、バス待ち環境の整備により乗継利便性の向上を図ります。

## 【関連する実施施策】

- ・まちづくりと一体となった交通結節機能の強化【再掲】
- ・ユニバーサルデザインの考え方を踏まえたバリアフリー化の促進
- ・公共サイン整備ガイドラインに基づく案内表示の推進
- ・ベンチや上屋などのバス待ち環境整備

## ■13■ ユニバーサルデザインの考え方を踏まえたバリアフリー化の促進

- (1) 各地域の拠点では、ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、舗装、視覚障害者誘導用ブロック、案内設備、植栽等の適切な維持管理等の既存道路の安全性向上に向けたバリアフリー化を促進することにより、歩行者の回遊性を高め、誰もが利用しやすい交通結節点を目指します。
- (2) バリアフリー法に定める重点整備地区に新たに位置付けられた京王多摩川駅周辺地区について、新たな総合福祉センターの整備に合わせ、バリアフリー化の取組を促進します。
- (3) 旅客施設では、調布駅付近の連続立体交差事業と併せてバリアフリー化を図り、(旧)調布市バリアフリー基本構想(平成24(2012)年3月策定)における全ての公共交通特定事業が完了していますが、引き続き、駅係員、乗務員のバリアフリー教育等の継続事業の推進が必要です。
- (4) バス・タクシーでは、ノンステップバスやユニバーサルデザインタクシーの普及や乗務員教育の強化が課題となっています。そのため、今後は上記の課題を改善していくとともに、高齢者、障害者等に対する理解促進や施設利用の手助けといった人的対応・心のバリアフリーに関する取組を実施します。

## ■14■ 公共サイン整備ガイドラインに基づく案内表示の推進

調布市公共サイン整備ガイドライン(平成27(2015)年3月)に基づき、誰にでもわかりやすく、安全・安心に使える、統一感のある美しい公共サイン整備を推進します。

## ■15■ ベンチや上屋などのバス待ち環境整備

駅前バスターミナル以外でも、主要なバス停において、運行情報システム、道路の幅員など条件が整う箇所について、上屋やベンチの設置状況を確認し、交通事業者とともに設置に向けた検討を進め、快適でより利用しやすいバス交通を目指します。

施策実施方針6 利用しやすい環境整備

全ての利用者にわかりやすい情報提供により、誰もが利用しやすい公共交通利用の環境を目指します。

【関連する実施施策】

・市民・来訪者など全ての利用者にわかりやすい情報提供

■16■ 市民・来訪者など全ての利用者にわかりやすい情報提供

- (1) 目的地へ向かうバス路線の情報や鉄道駅から利用するバス停までの経路などについて、わかりやすい情報提供を行うとともに、バスが利用しやすい交通手段であることを伝え、利用促進を図ります。
- (2) 鉄道駅では、路線シンボル及び駅ナンバリングの表記やピクトグラムを活用、多言語表記の充実などわかりやすい案内表示への改善に向けて事業者と協議を行います。

事業スケジュール

基本交通 施策	施策実施方針	実施施策	施策実施時期	
			令和5（2023） 年度以降	
			短期	中長期
公共交通 利用環境 の整備	乗継利便性など の向上	まちづくりと一体となった交通結節機能の強化 【再掲】		
		ユニバーサルデザインの考え方を踏まえたバリア フリー化の促進		
		公共サイン整備ガイドラインに基づく案内表示 の推進		
		ベンチや上屋などのバス待ち環境整備		
	利用しやすい環 境整備	市民・来訪者など全ての利用者にわかりやすい情 報提供		

( □ : 施策の準備・検討    ■ : 施策の展開・実施    ▨ : 実施した施策の継続・運用)

## 第2節 計画の進行管理

本計画における施策の実施に当たっては、定期的に施策の進捗状況、導入効果、目標達成度などを確認します。

また、調布市公共交通活性化協議会において、施策に応じて進捗状況や検討状況を確認するとともに、市のホームページ等を通じて公表することにより、透明性や公平性を確保しつつ進めていきます。

### 2.1 計画の評価・検証

本計画の評価・検証に当たり、関連計画の変更や社会情勢の変化等を適時・適切に捉えることも重要です。計画の策定（Plan）、個別計画等による実行（Do）、収集した成果指標による評価（Check）、評価を基に時代にふさわしいプランとなるよう改善（Action）を行うPDCAサイクルにより、時代に適した方法で計画を推進していきます。

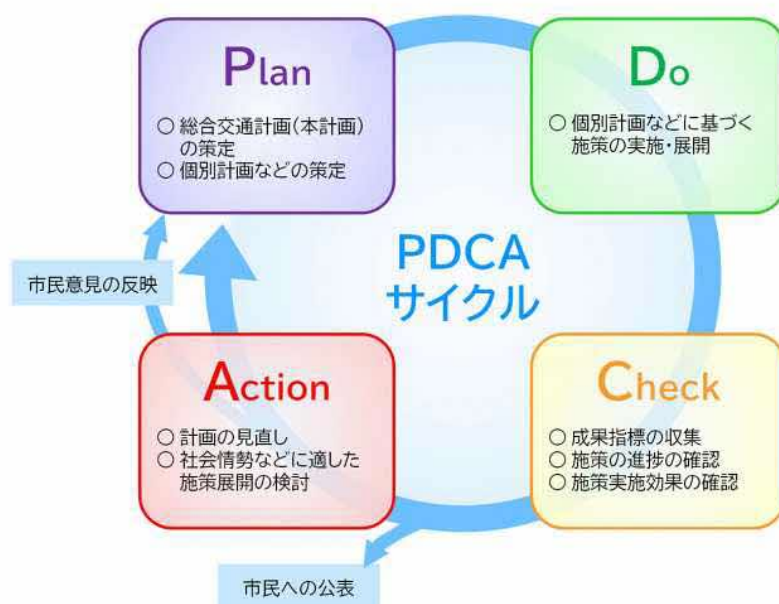


図 PDCAサイクルのイメージ